

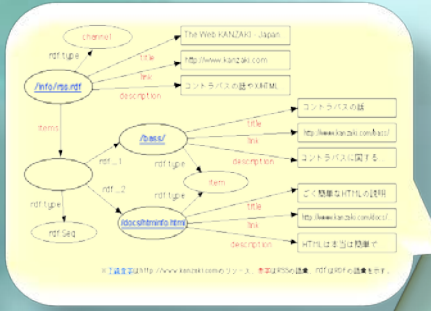
iDolphinの新UI

(株) サイバー・ラボ

開発の背景

事業化				パッケージ 商品化
サービス	クリニック向けEMR		①病・病連携 ②病・診連携 ③患者自身	
動作環境	一般PC	PC~ Smartphone	Tablet PC Smartphone	
プラット フォーム	eDolphin	iDolphin	pDolphin Client: 自在な表現 Server: 整理・汎用化	
通信 プロトコル	MML1.0	MML2.0	MML3.0	
技術レイヤ	SGML	XML, Java	HTML, JavaScript, Perl, PHP	HTML5, Ajax, RIA
	1995~6	2000	現在	今後

開発コンセプト



RDFa等セマンティック構造の強化による利便性の向上

必領

①施設名称 併:日本病院

②施設名称(フリガナ) 併:ニホンビョウイン

③施設(略称 15文字以内) 併:日病

④病院タイプ/グループ その他

⑤科急(科制) 二次救急

⑥がん診療(科制) 都道府県がん診療連携拠点病院

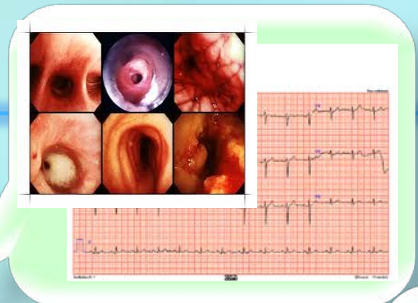
⑦地域医療連携(科制) 地域医療連携病院

⑧ベッド数(総数) 500

⑨ベッド数(一般病床/ベッド数) 400

入力必須項目の指定や入力凡例表示

動画や音声、グラフィック等の汎用的なハンドリング



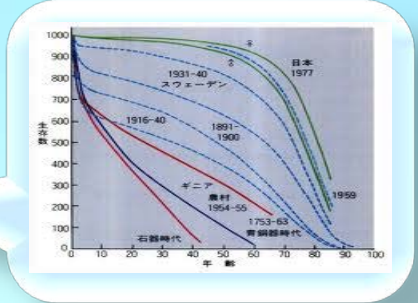
Dolphin の将来に亘る自由な発展性の確保

GPS、マイク、カメラ、端末の向きの取得と利用



入力値などの強力な書式チェック

クライアント側での大量データの高度な処理



Performance status(ECOG)はいつですか?

0 1 2
3 4 未確認

末梢白血球数 50000 /μl

ヘモグロビン値 g/dl

血小板数 万/μl (単位に注意)

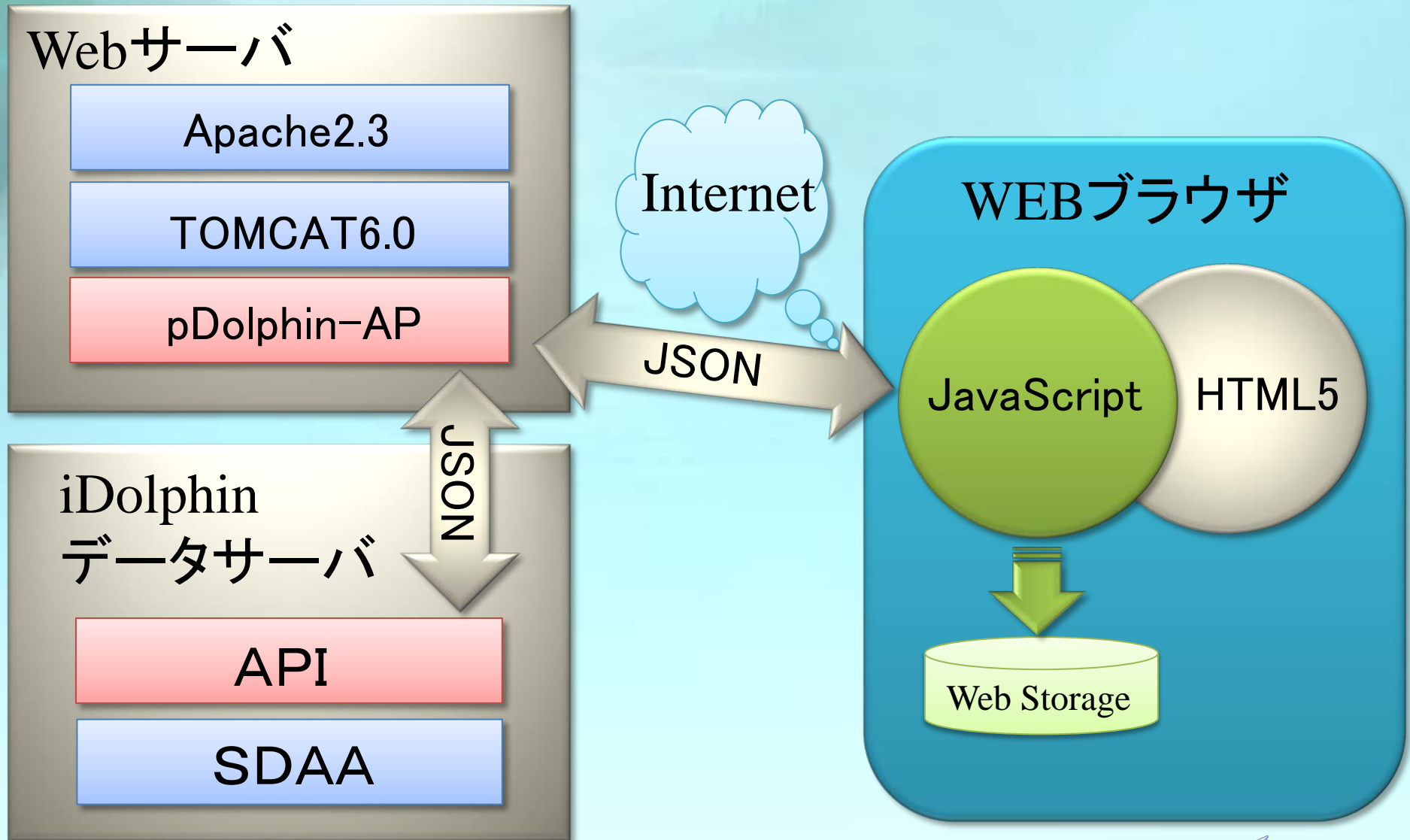
血清ビリルビン値 mg/dl

血清クレアチニン値 mg/dl

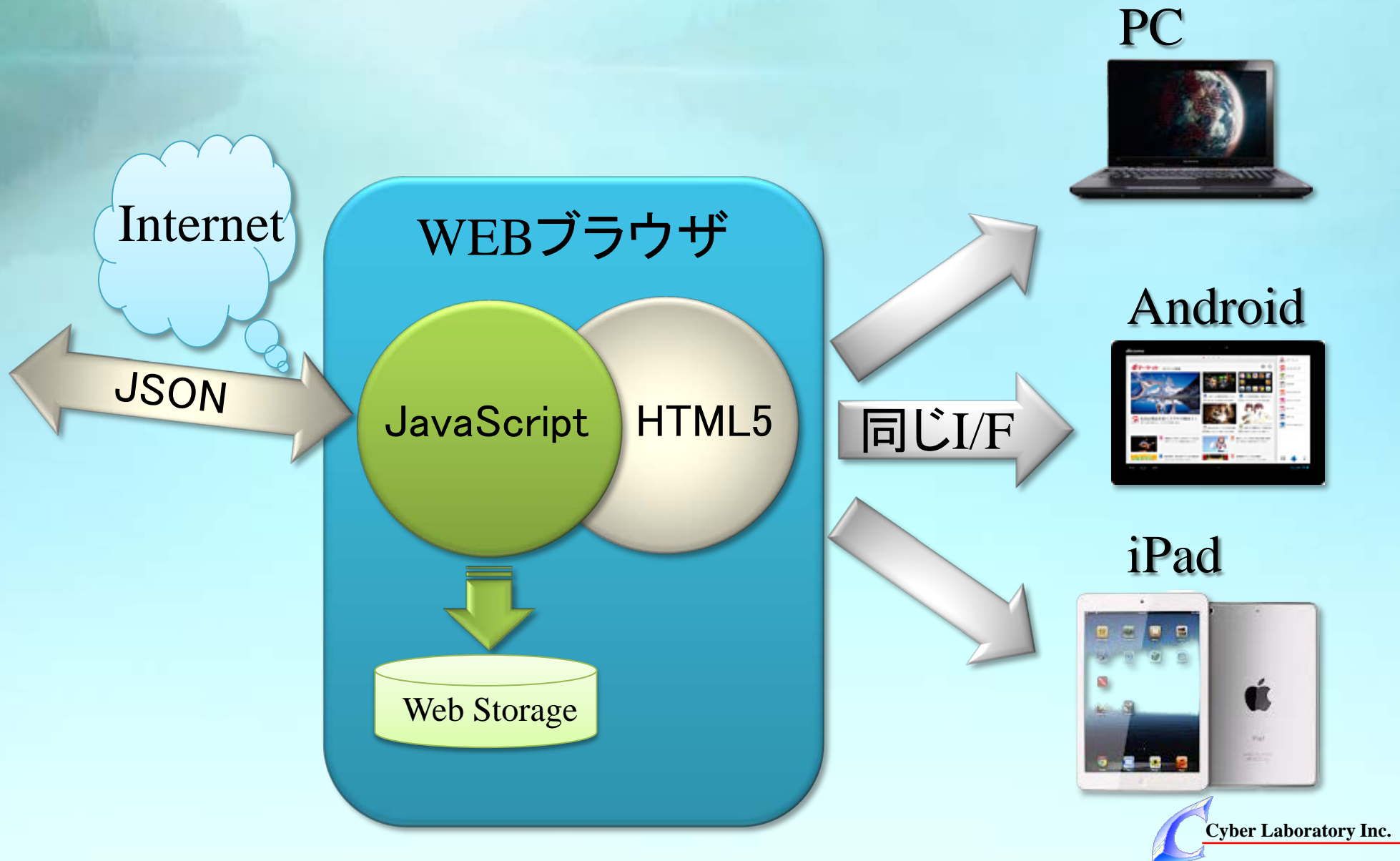
t(8;21) t(1;3) -5

t(11;11) t(9;11) t(4;11)

システム構成

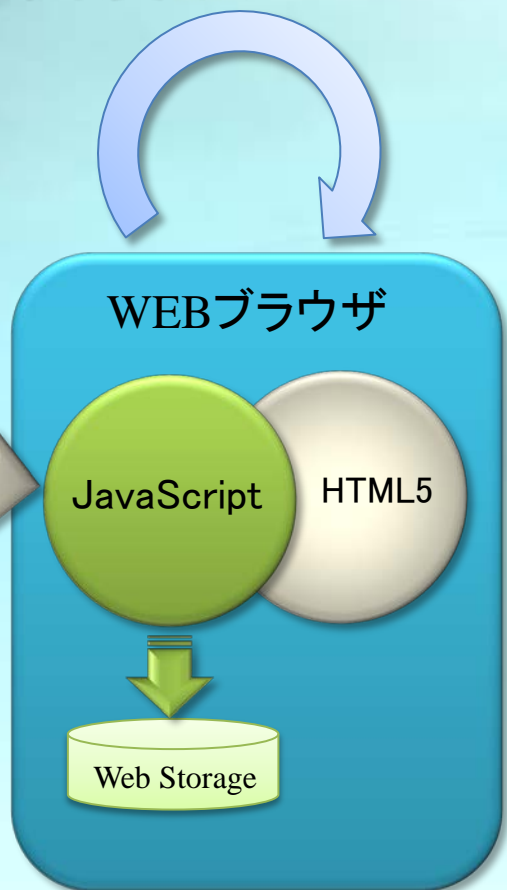


動作環境に対するAP独立性の維持



Rich Internet Application設計

ブラウザ内での
高度な処理



- ① 使いやすさ:
少ないクリック数での表示
- ② 快適性:
サーバ負荷の軽減
- ③ わかりやすさ
アニメーション等による表示

DMS(Dolphin MML Kart: x)

211.132.172.254:8080/iDolphin/httpdoc/patient/main.html

利用者情報 26070000177 京都まいこ 女性 1985年05月16日 ログアウト

カルテ検索 検査結果一覧 文書作成 受診医療機関

地域共有カルテ検索

検索期間 検索期間 過去1ヶ月

文書種別 患者情報 健康保険 診断履歴 生活習慣 基礎的診療 初回時特有 経過記録 手術記録 臨床サマリー 予約請求 点数金額 紹介状 検査結果 報告書

既定に戻す 全てオン 全てオフ

検索実行

日付	文書種別	医療機関
2013/05/15 (水)	初回時特有	京都大学医学部附属病院
2013/05/16 (木)	初回時特有	京都府立医科大学附属病院
2013/05/17 (金)	初回時特有	京都きづ川病院

1 - 25/224 項目 25 | 50 | すべて

作成者 京都大学 医学部附属病院 作成施設 京都大学医学部附属病院
作成日 2005年 06月 20日 診療科

保険者番号 264127
被保険者情報 -
本人家族区分 家族
保険開始日 2005-04-07
縦経疾病情報

デモ

デモ内容

- ① 現行iDolphin
- ② pDolphin

まとめ

現在、2014年までの正式勧告を目指して策定が行われているHTML5に準拠し、改訂の主要目的のひとつとして人間にも読解可能でコンピューターや種々のデバイス（スマートフォン、タブレットPCなど）にも矛盾せず読解されるとともに最新のマルチメディアをサポートする言語への対応を検討した。

現存のPCをはじめiOSやAndroid-OS上で同一インターフェイスでiDolphin機能が動作することを検証した。今後タブレットPC等が多用されることを想定し、タッチ操作に適したインターフェイスを設計する必要があると思われる。

Dolphinプロジェクトの事業化において現存の種々のプラットフォームに対応することは不可欠であり、また高度化する医療ニーズに柔軟に対応できるアーキテクチャを具備することも求められており、そのためHTML5標準化動向に合わせて商品パッケージの完成度を順次高めていく予定である。